

様式7

「学校」部門

河川基金助成事業

「身近な河川に関することの研究」 報告書

助成番号：2019 - 7210 - 009

北海道帯広市立緑丘小学校

校長 澤田 靖

2019 年度

助成番号	助成事業名			学校名		
2019 - 7210 - 009	身近な河川に関することの研究			北海道帯広市立緑丘小学校		
校長名	澤田 靖	担当教諭名		小林 弘幸		
過去の助成実績	なし あり [助成番号: 助成事業名:]					
キーワード	生物の観察 水質調査 課題解決学習 成果の発信					
対象児童生徒	高校生 (年 名) 中学生 (年 名) 小学生 (4年 84名)					
対象河川名	ウツベツ川・札内川	活動場所の指定状況		なし 子どもの水辺 水辺の楽校		
年間学習計画 (シラバス) における本助成事業の位置づけ						
テーマ	十勝の川について調べよう					
ねらい	自分たちのまちの川で体験活動をすることで、川について理解を深めるとともに、環境のために自分でもできることを考え、実践することができる。					
評価の観点	①積極的に川とかかわり、課題解決に向けて行動しようとしているか。 ②調べたことや体験したことをわかりやすくまとめ、課題を明確にしなが自分なりの考えをまとめることができたか。					
活動時期	6月～12月					
活動形態	総合的な学習の時間	各教科学習 ()	各教科学習 ()	学校行事	その他 ()	合計
上記の活動時間数	24時間	時間	時間	時間	時間	24時間
支援者等 (複数記入可)						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関 (博物館、資料館) 等		関係団体 (漁協、農協) 等		企業	その他
支援概要	・水質調査指導 ・川での安全指導 ・川での観察時の指導、安全確保 ・情報提供 ・授業計画の相談にもものっていただいています。 (・エールセンター十勝・帯広建設管理部・十勝多自然ネット・アークコーポレーション)					
活動成果	発表形態			成果作品		
	学級単位	学年単位	学校全体	発表ボード		
安全対策に関する課題						
・今回は、とても暑い日だったので、水分補給などの熱中症対策が課題となった。水筒は持参させたが、活動中に補給することは難しく、計画の中に休憩時間を設定する必要がある。 ・行政の環境整備 (周辺の草刈り) 等とタイミングが合わないと、かなりの雑草があり、視覚的に危険度が増すので、環境整備の時期を合わせることができればなら要望することも視野に入れていく必要がある。						
活動の成果と今後の課題・展開						
・最初川の学習に対して躊躇していた子どもたちが、帰りには「もっといたい」「もう一度来たい」と、川に対して積極的にかかわりをもちたいと考えるようになった。また、ウチダザリガニ等の外来種やゴミなど、環境問題にも関心を示すようになり、「地域の川」「自分たちの川」という感情が生まれたことが大きな成果と言える。 ・今後は、社会の一員として何ができるか? どのように川とかかわっていくのかを経験をもとに考えさせていきたい。また、学年や学級内だけでなく、学習の成果を全校や地域にも発信していけるような授業展開にすることで、単発の活動ではなく、継続して川とかかわっていけるようにしていきたい。						
活動内容と実施時期 (主な活動を2つのみ記入)						
データベースに登録する活動分野	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期	
	学校部門	教育活動	水質調査系	パックテスト	6月～9月	
			生物調査系	生き物と環境	9月	

※データベースに登録する活動分野は、助成事業実施の手引き P. 47 の一覧表から代表的なものを2つ記入して下さい。

研修報告書

助成番号	2019 - 7210 - 009	学校名	帯広市立緑丘小学校
助成事業名	「身近な河川に関することの研究」		
日付	令和元年6月29日	時間	9:00~16:00
場所(会場)	はつしば学園小学校	主催者名	公益財団法人 河川財団
研修・講演名	全国河川教育実践事例発表会		
参加者名	担当: 小林 弘幸	氏名	井上 瑤平
参加目標	<p>①全国の河川教育の取組発表を聞いたり、ポスターセッションを通じた意見交換をしたりすることによって得た知識を、本校の実践に生かす。</p> <p>②河川教育を推進することのできる人材育成を図る。</p>		
研修内容	<p>①実践事例発表会への参加</p> <p>②はつしば学園小学校の授業参観</p> <p>③ポスターセッション実践発表への参加</p> <p>④意見交換会への参加</p>		
感想	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観では大きな溜池で水質調査(CODパケットテスト)を行った。水質調査そのものよりも、余った時間で微生物を採って観察したときの方が、子どもたちの目が輝いていた。単元の目標にもある「自然環境の保全」に向かうのであれば、まずは虫を捕まえてみることから興味を持たせ、水質に広げていく方法でも良いかもしれない。 ・ポスターセッションでは、子どもたちの学びの過程をまとめたものだけでなく、評価の尺度に関する研究や、防災教育、学習発表会での発表などがあり、河川教育にも様々な分野、アプローチの仕方があることがわかった。 ・自校の取り組みについて発表を行った際に、「4年生だけで取り組むのはもったいない。もっと学年を広げて段階的に学習した方がよい」とのアドバイスを頂くことができた。今後、他学年と連携してより深い学びになる実践をしていきたい。 		

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019 - 7210 - 009	身近な河川に関することの研究	北海道帯広市立緑丘小学校 校長 澤田 靖



「十勝川流域下水道浄化センター」

まずは、社会科の「水はどこから」の学習の中で、自分達にとって身近なウツバツ川や札内川が流れ込んでいる十勝川に「十勝川流域下水道浄化センター」があることを知り、見学に行きました。

センターの職員の方々の話を聞いたり、水がきれいになる過程を見学したりする中で、自分達が出す生活排水がどのように処理をされ、十勝川へ流されているのか？きれいな川を維持するためには何か必要なのか？等、自分事として川と向き合うきっかけとなりました。



「稲田浄水場」

次は、清流日本一にもなった札内川にある「稲田浄水場」へ見学に行きました。車で 10 分くらいのところにある身近な川と浄水場なので、子ども達も自分達の飲み水がこの場で作られているという実感をすぐに抱くことができました。

また、学校近くのウツバツ川が流れ込む川でもあることから、下水道浄化センターの見学時よりも、さらに川对环境に対する危機感をもつことができ、今後の調べ学習の意欲付けにつながりました。



「札内川」

いよいよ札内川での調査です。エールセンターの方々にご協力いただき、パックテストと水生生物採取による水質調査を行いました。少し肌寒い日でしたが、子ども達は意欲的に活動していました。子ども達にとって身近な川ではありますが、普段は、なかなか川と親しむ機会を与えてあげられないので、本当によい経験になったと思います。

パックテスト、生物指標とともに「とてもきれいな川」という結果が出て、子ども達は自分達の身近な川に誇りをもったようでした。

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019 - 7210 - 009	身近な河川に関するこの研究	北海道帯広市立緑丘小学校 校長 澤田 靖



「ウツベツ川」

最後に学校横を流れる「ウツベツ川」の調査を行いました。自分達にとって最も身近な川ではありますが、見た目にも少し汚れていると感じられるので、子ども達は少し躊躇しながら川へ入って行きました。

札内川同様、パックテストと生き物調査を行いました。結果は「少し汚い川」という判定。しかも、ウチダザリガニ等の外来種も多く確認でき、子ども達は、危機感を募らせていました。



「調べ学習発表会」

川の調査を終えた子ども達は、各自が考えた課題にそってグループに分かれて調べ学習を行い、その結果を発表ボードにまとめて報告会を開きました。

調べた内容は、調査を基に水質や外来種について詳しく調べたグループ、視野を広げて他府県や世界の川について調べたグループ、視点を変えて水源や山との関係について調べたグループ等多岐に渡り、今回の活動で子ども達の川に対する興味関心が広がったことがうかがえました。

今回は、学年での取組となりましたが、お世話になった関係機関の方々にも聞いていただければよかったと思いました。



「発表ボード」

発表時に活用したものです。グループごとの作業だと、なかなか一斉に作業ができないので時間がかかるのですが、このボードは、テーマ別に各自が調べたものをそれぞれ整理して貼ることができるので、効率的です。また、各自が責任をもって作業をすることになるので、評価もしやすく大変便利です。さらに観音開きになっているので、自立させることができ、展示する時や発表する時にとっても使いやすいです。

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019 - 7210 - 009	身近な河川に関することの研究	北海道帯広市立緑丘小学校 校長 澤田 靖

主な実施箇所

※環境学習を数カ所で行っている場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。
 ※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。
 (縮尺は 1/50 万～1/100 万程度)

助成事業の主な実施箇所

